

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2007. 4. 26 No. 1

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## ピリカガエル？

例年、ふれあい交流館前の溜め池にエゾアカガエルが産卵のため集まってきました。ことしも、たくさんのカエルたちが集まり、ペアを組むための行動が見られたり、産み終えたゼリー状の卵が見られたします。

北海道に生息しているカエルは、エゾアカガエル、ニホンアマガエル、アズマヒキガエル、ツチガエル、ウシガエルの5種類といわれていますが、北海道にもともと生息していたカエルはエゾアカガエルとニホンアマガエルです。ほかの3種は利用飼育の目的やペットとして飼われていたものが逃げだしたり捨てられたりしたものが野生化したものです。

春のこの時期見られる北海道特産種のエゾアカガエルは道内に広く分布していますが、長い間、ヨーロッパに分布するアカガエルと同じ種類であると思われていましたが、今から11年ほど前に別種であることがわかり、新しい学名がつけました。その学名を *Rana pirrica* (ラナ・ピリカ) といいます。ラナとはアカガエルの仲間を示すラテン語で、ピリカとはアイヌ語のピリカ(美しい)の意味です。エゾアカガエルの容姿を美しいと感じるかは別として、北海道にふさわしい学名ではないでしょうか。

卵が孵化してオタマジャクシになると、水中の小さな虫や水草・コケなどを食べ成長しますが初めに足が出て次に手がでてしっぽがなくなります。そして肺呼吸ができるようになると陸に上がって虫やクモなどを食べて成長していきますが、8cmほどになった2年目の春に産卵をします。

(インターネットHP参考)



## 地球温暖化と森の役割

森は、高木、亜高木、低木、草本(野草)などから成り立っています。また寿命の長い硬い樹木も多く多様な立体的な構造を持っています。それ故、多くの動物がそれぞれの階層ごとに住家をつくり、天敵から身を守ったり、繁殖の巣穴を作ることできます。また、森は動物たちにとって木の実などの食料を提供したり、虫たちは木の葉を食べ、その虫を野鳥などが餌にするという食物連鎖の重要な位置を占めています。

近年、地球温暖化に関連して森の二酸化炭素の吸収能力(光合成によるもの)がクローズアップされています。森が光合成によって取り込んでいる炭素量はかなり大量で、世界の森が保有している炭素量は、大気中の炭素量の2倍にもあたるといわれ、森が炭素の貯蔵庫と言われる所以でもあります。さらに、大気中の二酸化炭素の濃度が高くなると、森が盛んに光合成を行い二酸化炭素の濃度を引き下げるとも言われています。つまり、森は「二酸化炭素濃度の自動制御」の役割もしているのです。

## 自然観察 Q & A

Q フクジュソウの花の咲く条件はありますか？

A 公園内ではフクジュソウが今を盛りと花を咲かせていて一番の見頃です。雨の日や夕暮れにはこの花は閉じていて、光に反応して咲いたり閉じたりしているように見えますが、実際は気温に関係があります。気温が10℃以上で開き始め、15～20℃で完全に開きます。ですから、この花をしっかりと観察するには晴れた気温の高い日がおすすめです。

花の部分をよく観察すると、花弁はロウを塗ったようなつややかさがあり、その外側には暗緑紫のガクが数枚ついています。花が終わるところからニンジンに似たやわらかい葉が茂りだし、やがて小さな毛まり状の集合果ができます。地上部はだいたい6月ごろになると枯れてしまい、地下部だけの休眠生活にはいります。

フクジュソウはキンポウゲ科の多年草でアドニス (Adonis) 属です。アドニスとはギリシャ神話に登場する美少年アドニスにちなんで命名されています。

Q ミズバショウやザゼンソウの形態の特徴を知りたいのですが？

A 湿地の場所に、ミズバショウがさいています。この花びらのような白い部分は実は花びらではなく「仏炎苞」とよばれる苞です。苞とは「苞葉」ともい葉の変形したものです。本米の花にあたる部分は中心に15～20cmぐらいの棒状の花軸があり、これに多数の小さな花がくいこんだようについています。これを苞葉が包んでいるのです。

公園内には色が赤紫色のザゼンソウも咲いています。ミズバショウもザゼンソウも同じサトイモ科に属していて、おもな特徴は、花が太い肉穂花序（花軸が多肉になり、それに小さな小花がたくさんつく）であること、そして、特異な炎形の仏炎苞でマント式にくるまれていることです。

花が終わって結実する雌株と、しない雄株がありますが、栄養状態が悪化すると雌から雄へ性転換することが知られています。

Q 森の中から野鳥のさえずりが聞こえます。この時期なぜさえずりが華やかなのですか？

A 森の中を歩いていると、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ヤマガラ等のカラの仲間のさえずりが聞こえてきます。樹木の葉が出ていないこの時期は野鳥の姿を見つけやすく耳と目での観察が楽しめます。

さえずりは、例外はありますが雄の成鳥が繁殖期に鳴くものです。さえずる理由の一つは、成熟した雄が繁殖期になわばりをもち、その持ち主であることを主張していること、また、同種のほかの個体がなわばりに侵入してくるのを防ぐ効果があることが知られています。

二つ目の理由は、雌を呼ぶためのものだとされています。その証拠に、つがいが形成されて繁殖に入るととたんに、さえずりが減ることがわかっています。さえずる理由はともかく、春の森で色々な野鳥のさえずりを楽しみましょう。

### 5月の観察会は？

森の中のゴミ拾う活動と、一斉に咲きだした野草を観察する「森に感謝する」観察会ですので、ゴミ袋やゴミばさみのある方はご用意ください。

・春のありがとう観察会

5月13日(日) 10:00~14:30 大沢口ふれあい交流館前集合 昼食用意